

## 取り組み紹介書

施設 浜松市リハビリテーション病院	団体名 えんげと声のセンター
----------------------	-------------------

### 【タイトル】 えんげと声のセンターの取り組み

#### 【課題】

嚥下障害は、高齢者の代表的な死因である肺炎を引き起こすが、窒息・脱水・低栄養などの原因となるほか、食べる楽しみをも奪い QOL 低下や人生の最終段階とも密接に関わる問題である。超高齢社会において摂食嚥下障害の対策の重要性は増してきている。当院では 2011 年に「えんげと声のセンター」を立ち上げ、嚥下と声の問題に対する高度な専門医療をチームで提供しているが、治療や方針決定に難渋する症例や、マンパワーの問題、施設や在宅スタッフとの連携、臨床現場に潜む倫理的ジレンマへの対応など課題も多い。

#### 【目的】

- ・嚥下と声の問題に対する専門医療をチームで提供する。  
各種機能訓練、環境調整、栄養管理、生活指導や環境調整、歯科治療、口腔ケア重症例に対しては外科的治療含め対応。新規治療機器の導入。嚥下機能評価尺度の導入や開発。
- ・院内外の医療介護スタッフの嚥下障害に対する理解やスキルの向上。

#### 【方法】

- ・月 1 回えんげと声のセンター運営会議を開催。多職種(医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・放射線技師・薬剤師・管理栄養士・事務職員など)からなるチームでセンターの運営について検討。院内外へ発信。
- ・新しい評価ツールの確立・導入により患者の状態を多職種で共有。  
嚥下障害の重症度評価尺度 (FILS) の開発、口腔機能評価(OHAT)、患者の QOL を勘案した食支援を行うための評価ツール(KT バランスチャート)の導入など(資料 1, 2)
- ・各種研修・勉強会の開催
  - ・えんげサポーター養成講座 (院内外の多職種を対象に全 12 回/年の研修を行う) (資料 3)
  - ・食事介助ボランティアの育成・・・対象者：市民 (講義と実習を実施し、院内にて活動)
  - ・摂食嚥下懇話会・嚥下フォーラム (年 6 回)・・・対象者：市内医療介護スタッフ
  - ・嚥下障害実習研修会 (年 2 回)・対象者：全国の医師
  - ・臨床倫理セミナー (地域の医療介護スタッフ)・倫理カンファレンス (院内)

#### 【結果・効果】

診療実績(摂食機能療法、ST 処方件数、嚥下造影検査数、歯科診療実績など)は増加傾向である。外科的治療適応例は摂食状況は大幅に改善する。(資料 1)  
多職種で共通した評価ツールを用いることで、スタッフの患者支援スキル向上や職種間の連携に役立っている。特に KT バランスチャートを用いた事業が、平成 30 年度浜松市の「領域の異なる多職種連携による在宅医療・介護連携推進事業」の一つに採択された。FILS は国際的にも使用されエビデンス構築に役立っている。病棟看護師が OHAT を用いて入院患者全員の口腔内を評価、歯科との連携がスムーズとなった。  
各種研修・勉強会を定期的に開催し、院内外の医療介護スタッフの知識やスキルの向上を行っている。

#### 【事業団内外の表彰実績 (表彰されている場合)】

- ・浜松市医療奨励賞

